毎週月曜日更新

カタカタ通信

第１５０号

「小さい侵入者との戦いが始った」

２０２４年１１月１１日

秋は短く、すぐに冬がやってきます。冬の訪れを気付かせてくれる鳥たちがいます。数日前から、ジョウビタキが鳴き、電柱にノスリが止まるのを目にするようになりました。冬鳥と呼ばれる鳥たちです。うれしかったのは、昔までの話。今は鳥インフルエンザが心配です。

鳥インフルエンザ対策には、通常おこなっている長靴の消毒から始まり、飼育ケージの周りに消石灰を撒くこともあります。消石灰は、小さいネズミたちが鳥インフルエンザを運んでこないよう、防ぐ役割などがあります。

そんな苦労を知ってか知らずか、スズメが飼育ケージの小さな隙間から侵入してきます。スズメが入ったとわかると、観察カメラの録画データを見直し、どこから入ったかを確認して隙間を塞いでいます。スズメとの攻防戦です。ある日、録画データを確認していると、朝露がおりて、コウノトリが歩いた場所に跡が残っていました。スズメもこんな跡を残してくれたらいいなと思う日々です。

ジョウビタキが季節を知らせてくれます

小さなライバル

朝霜にコウノトリの歩いたあとが残っています

天空の里　鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：しみじい